

プラスチックごみを減らすには

上田染谷丘高等学校 1年 笠井ミカイル

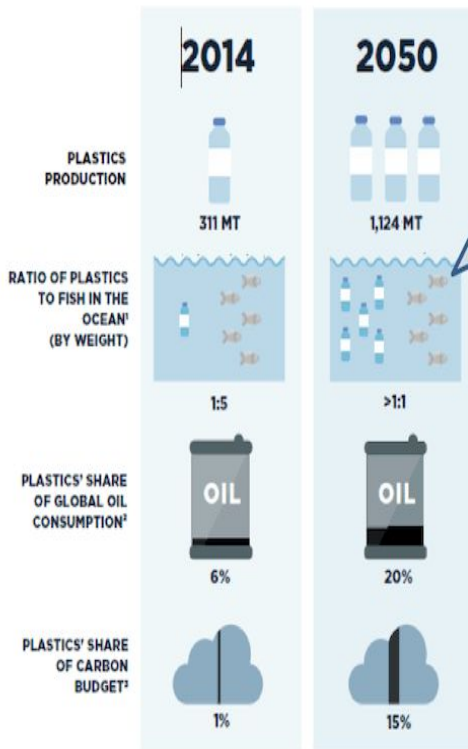
1 理由

地球温暖化が進んでいると日々報道されていて、その主な要因としてプラスチックごみの増加とされています。

プラスチックごみはみんなが出すものだからこそ、みんなで取り組みやすいものだと思ったからです。

2現状

1950年以降に世界で生産されたプラスチックは83億トンを超え、63億トンがごみとして廃棄。そのうち回収されたプラスチックごみの79パーセントが埋め立て、あるいは海へ投棄されている。



2050年には
・海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加
・石油消費量においてプラスチックが占める割合が20%に上昇
・炭素収支においてプラスチックが占める割合が15%に上昇

3課題、問題点

不法投棄されたプラスチックゴミは、川などを流れ、海にたどり着いて海洋汚染を引き起こします。海洋汚染は海の生き物だけでなく、それを食べる人間にも影響を与えると考えられています。海洋汚染によって水質が悪化すると、水産業や住環境にも悪影響を及ぼすでしょう。また、プラスチックゴミを焼却処理する際には、二酸化炭素(CO₂)が発生します。CO₂は地球温暖化を引き起こす温室効果ガスの一つです。プラスチックゴミの増加によって焼却処理が増えれば、それに伴ってCO₂の排出量も増加してしまいます。



4提案

発泡スチロールやビニールを活用したクッション材を、紙素材に変更することもプラスチックごみの削減になります。

食器をプラスチック製から、紙製・木製に変更する事例があります。社内で提供・販売するワンウェイプラスチック容器(コーヒーカップ・レジ袋・ストロー・マドラー)を紙製・木製に変更。また、会議中のペットボトル飲料の使用をやめることでもプラスチック削減につながります。

5まとめ

地球温暖化や海洋汚染などの環境破壊につながる深刻な問題です。プラスチックゴミが海に増え、海の生き物の命やすみかを奪ってしまうという痛ましいことになっています。私たちができることは、まず、プラスチックゴミの発生を抑えること。そして、企業の方々に協力してもらおうことだと思います。

6引用元、参考文献

with you、日本財団ジャーナル、buzzplanningより